

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4170100368		
法人名	(有)都紀		
事業所名	本庄紀水苑		
所在地	佐賀市本庄町袋229-8		
自己評価作成日	平成22年1月20日	評価結果市町村受理日	平成22年4月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社団法人佐賀県社会福祉会
所在地	佐賀市八戸溝一丁目15番3号
訪問調査日	平成22年2月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

スタッフミーティングにて職員一同、入居者一人一人の状態報告・検討事項等に時間をとり、個別ケアの実現に力を注いでいる。民家改修型の当苑の長所を利用し、足腰の強い入居者の方には残存能力を最大限に生かし、またその維持を目的として苑内階段を利用して頂き、2階居室を利用してもらっている。また車イスの方には一回居室にて機能訓練を行っていただき、その人にあったサービスの提供を行う等、個別ケアの提供を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

民家改修型のグループホームで、「ゆっくり」「一緒に」「楽しく」の理念の下、住み慣れた我が家のような安心感が感じられる佇まいである。二階に部屋を設け、階段の上り下り等、残存能力を引き出し、それを維持できるように支援されている。同法人に3箇所のグループホームがあり、それぞれのホーム職員との連携、協力体制が整っており、全体で入居者の生活を支えるように取り組まれている。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関リビング事務所の中に理念を掲げ理念実施に日々努力している	リビングに理念を掲げ、入居者への対応で迷った時に理念を再確認する機会を設けられ、支援の方法を見直すように努められている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	回覧板の受け渡し、近隣への買い物手作りおはぎの配布など入居者と共に行い交流に努めている	近隣の理美容室を利用したり、回覧板の受け渡し等、日頃からの地域の一員として溶け込めるように努められている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の方と、気軽に挨拶し特に一人暮らしのかたには困った事があったらいつでもどうぞと声をかけ相談しやすい環境造りに努めている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	包括支援センター地域の方家族入居者の方々に参加してもらいホームの役割、状況、入居者の暮らしぶりなどを報告し家族の要望や思いを聞き出せる場になってをりサービス向上にいかしている	包括支援センター、自治会長や民生委員はじめ地域の方の参加を促し、議題に応じて多くの方に参加して頂くように、努められている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護課担当者の訪問や出向いて意見を頂くようにしている	地域包括支援センターとの連携を密にし、協力体制を築くよう取り組まれている。また、入居者のより良い支援に向け、他の行政機関との協力体制を築き、いろいろな問題を解決していくように取り組まれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフ全員が理解し身体拘束をしないケアに取り組んでおり、施錠にかんしても日中は玄関に鍵をかけず出入りを自由にしている。そのため所在確認や出られる際は見守り同行し安全に努めている	法人全体で研修を行い、職員全体の意識付けがなされている。玄関の鍵はかけず、出入りを自由にし、普段の生活の中でも身体拘束をしない工夫がなされている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアル作成し勉強会などでスタッフの意識を高め日々防止に努めている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修などで学んだことをスタッフミーティングや運営推進会議にて話題にし、スタッフ家族一緒に学びあっている。入居者に地域福祉権利擁護事業を利用しておられる方がいらっしゃる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時入居者家族から不安要望を聞き十分に話せる時間をもうけご理解して頂ける様説明した上で契約している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱設置や福祉サービス運営適正化委員会のポスターを掲示してをり面会時、運営推進会議時、家族会、メール等で積極的に話しかけ意見要望を聞くようにしている。又家族入居者にアンケートを取り改善に取り組んでいる	年2回の家族会を開き、意見を聴く機会を設けられている。面会時、メール等により普段から意見を聞く機会を設け、日々の支援に活かすように努められている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議、委員会、申し送り、食事会などで意見交換しスタッフの声に耳を傾け意欲、質の向上に活かしている	委員会、申し送り、食事会を定期的に行い、意見交換しやすいように取り組まれている。また、それぞれの専門スタッフの意見を取り入れる等、サービスの質の向上に努められている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者会議やスタッフ会議などに参加し勤務状況職員個々の努力を把握し、給与水準労働時間の整備に努め向上心を持って働ける様取り組んでいる		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	フランチャイズ勉強会に参加し知識や質の向上に取り組んでいる。又外部の研修などにも参加出来る様情報提供や勤務体制の調整を行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	フランチャイズ間での交流研修や他GHから地域行事の招待を受け参加しネットワーク作りに取り組んでいる。今後、風船バレーの対抗試合も予定にある。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に面接を行い、本人の要望、不安点を十分聞く機会を設け、本人が安心して利用して頂ける様努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望や不安を聞き当ホームで出来る事を説明しお互いの信頼関係構築に努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時は利用者の状態や生活環境を考慮し何が必要なのか視野に入れながら説明や紹介をしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の残存機能を生かしながら出来る事を一緒に発見し共に喜び楽しみを感じ、お互い学び支えあう関係が保てるよう努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	苑行事にはご家族様に誘いかけ参加して頂き入居者の現状を伝えながら一緒に嬉しさ楽しさ不安などを分かち合い支えあえるような関係を築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前利用されていた理美容室に行ったり昔から使用されていた物や写真を飾るなどの部屋作りに努めている又知人との年賀状での交流や親族協力のもと空き家となった自宅外出支援も行っている	昔馴染みの理美容室へ行ったり、昔の知人が気軽に訪問される等、関係の維持に努められている。また、馴染みの場所や自宅周辺へのドライブなども、機会を見つけ実施されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を把握しトラブル時は必ず間に入り仲裁しトラブルを未然に防ぐような対応をとりお互いに助け合い支え合っていける様な環境作りに努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院に治療のため退居された方には面会し本人家族の不安など聞いたりしている。又、数年前に退居された家族が今でも来苑して下さり、入居者に気軽に話しかけて下さったり、身内の相談にのることがある		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプランにて希望、意向の把握に取り組んでいる。入居者が何をどうしてほしいのかを訴え、行動等で見極め、傾聴し、否定せず接し方にも十分配慮している	日常生活の中で、一人ひとりの思いや意向の把握に努め、日頃の行動や言葉の中にある思いに耳を傾けるような支援がなされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴シートを活用し馴染みの生活が出来る様な活動支援を行っている又スタッフ全員でケアプラン見直しを検討し入居者各々に合ったケアが出来るよう努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	月一回ケアカンファレンスを必ず行いスタッフ全員で一人一人の日常の暮らし方流れを検討し心身状態の把握残存機能を活用できる環境とケアの提供に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成時は家族本人の意見を聞き情報収集し意見を出し合い担当者とケアマネで作成している又家族本人にプランの説明をし家族にはコピーを渡し一カ月前にモニタリングを行い身体状況など変化があった場合は見直し作成している	介護計画は職員間での話し合いを重ね、本人や家族の希望を中心に、職員の意見が反映されている。現状に即した支援が行えるように、モニタリング、評価、定期及び随時の見直しが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録にケアの気づき特変時には具体的に記入し送りやノートによりスタッフ全員が情報を把握している又そのことをケア会議で話し合いケアプラン見直しに生かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院付き添いが出来ない家族に代わって付添介助を行うなど本人、家族の状況により支援している又アンケートによりニーズの掘り起こしをしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	社会福祉協議会より当苑入居者の為に(傾聴ボランティア)訪問して頂くなど地域資源との共同が出来ており又警察、消防との連携により安全で豊かな暮らしを楽しんで頂いている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者家族の希望に応じたかかりつけ医をもっている又症状に応じた病院を受診するようにしている 月一回の往受診により状態報告を行い、急変時にも対応可能な医療機関と連携が取れている	希望に応じて、かかりつけ医への受診が行われ、協力医による往診も月1回実施されている。緊急時の対応ができるように、医療機関との24時間の連携も図られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	苑に正準看護師がおり、気軽に相談できる環境で日常の健康管理や医療活用が出来る。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した時には病院側と情報交換し少しでも早く退院が出来る様医師、看護師、家族を含め相談し、連携に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化及び終末期の指針を家族、本人と取り交わし、そうなった場合は出来るだけ早い段階で、本人家族の意向を取り入れながら、苑で出来る事を医師と話し合い、方針の共有化に努めている	重度化及び終末期のホームの指針は入居時に説明され、同意もとられている。状態の変化時は、主治医、家族も含めて話し合いの場がもたれ、意向を確認のうえ記録にも残されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急法の講習を定期的に行い、勉強会にて知識対応を学び緊急体制マニュアルをすぐに見れる様手短な所に設置している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練を年二回近隣の方(消防団の協力)を得て行っている協力者がわかりやすい様玄関と居室入口に担送、護送を写真で記載し事務所には避難場所までの経路を地図上に記入し全職員が把握している地区の防災マップに当苑記載	避難訓練は年2回、消防団の協力を得て行われている。事務所に避難経路の地図や職員手作りの防災マップ、入居者一人ひとりの避難方法も居室入り口に掲示され、職員全員が把握できるように体制が築かれてる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフは入居者一人一人の人格誇りを尊重し否定しないケアを行っている	一人ひとりの生活歴を把握し、声かけ、接し方の工夫がなされ、入居者の人格を尊重し否定しない支援がなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の能力に合わせて説明を行い、問いかけ選択し自己決定できる場面を多く持てるよう取り組んでいる又的確な言葉で表現出来ない方も日頃の観察や情報交換により察知把握出来る様努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	月の行事などあるものの入居者の生活リズムを大切に希望に添った日々を送れるよう支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人の好みを把握し帽子スカーフジュエリーといった道具で自分らしさを表現できるよう支援し身だしなみやおしゃれを楽しんでもらっている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を一緒に考え材料切ったり盛り付けしたり箸を並べたりとの方が有する力を発揮活用できるよう努めている 自発的に片づけして下さる方もいらっしゃる	職員も一緒に食卓を囲み楽しみながら食事をし、準備から後片付けも自発的に役割分担がなされている。気分転換に外食をしたり、出前をとるなどの工夫もなされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合わせた量や形態、嗜好品を提供し食事量水分量の把握チェックをしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアチェック表を活用し毎食後個人の能力に合わせたケアを行い不十分な所は介助している毎週水曜日の歯科往診、毎週日曜日の義歯洗浄など口腔内の清潔保持に努めている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	スタッフミーティング時に個別に排泄状況を話し合い紙パンツから布パンツへの対応など排泄の自立に向けた支援を行っている	食事前、入浴前に声かけをし、一人ひとりの排泄状況を把握し、自立に向けた取り組みがなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入居者別にキザミ食対応や腹部マッサージ、こまめな補水等に心がけ便秘予防に努めている又病院との連携を行い必要に応じて医師の指示を仰いでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者の希望に応じて入浴を楽しんで頂いており入浴剤の利用により快適に入浴して頂いている拒否がみられる場合には後日に延期、清拭対応など配慮している	毎日入浴できるように準備をされているが、2日に1度の入浴支援がなされている。身体状況や希望に応じて臨機応変に、柔軟な対応がなされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息と活動のバランスを考え残存能力を活用しながら日中の活動支援を行い日中も休息を取りながら夜間は良眠につなげる事が出来る様又医師に相談し眠剤や助言を頂き安心して眠る事の出来る様支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬説明書の保管を行い服用開始後の経過記録をしている必要に応じて医師と相談を行い薬の調整など指示を仰いでいる		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居される時点で生活歴の把握を行いその方の好み、今までの生活習慣に近い形がとれるよう支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人一人の希望に添い家族(と本人)と相談の上でその方の馴染みの店などに出向いたり買い物などに行ける様外出の機会をもうけ体制を整えている	同法人のグループホームの合同バスハイク等、月1回はバスハイクへ行ったり、入居者と一緒に買い物に行くなど、外出の機会を設けられている。日常の散歩等も状態を見ながら実施されている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が望む場合は家族と話し合い本人に持ってもらっている本人が所持されていない場合は当苑が立替、買い物など楽しんで頂いている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族、知人からの電話があった時には本人に話をして頂いたり、手紙については返事を書いて頂き年賀状の作製もして頂いている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の一人一人の性格生活習慣などを考慮し居心地のよい共有空間作りに努めている又季節感のあるものを題材にし作成した貼り絵などを飾り雰囲気作りを行っている	居間には、季節にあった貼り絵等が飾られ、家庭的な雰囲気の中、安心してくつろげる雰囲気づくりがなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人掛け用のソファを準備しておりその人の気分に応じて利用して頂いている又壁掛け用のテレビを購入しリビングスペースを広くすることで個別の空間として利用できる範囲を広げている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の時点で家族に説明を行い馴染みの物をより多く持ってきてもらうよう取り組んでいる又身体機能等も考慮し必要に応じて介護ベットを使用している	ベット、タンスは備え付けであるが、使い慣れたもの、家族の写真等が飾られ居心地よく過ごせるように工夫がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	食事の準備カレンダー張替、苑内の掃除など職員付添にて安全な自立支援が出来る様取り組んでいる		